令和６年７月22日

教育委員会事務局　総務部総務課　総務グループ　御中

子供たちの未来を繋ぐお母さん連合会
連絡先: okasanrenngoukai05@gmail.com
代表　伊藤　陽子
他２８名

歴史及び公民教科書採択についての要望書

拝啓、盛夏の候、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、子供たちの教育にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。
この度、令和７年中学校の教科書に関し、自虐史観に基づく記述が含まれる教科書について、以下の理由から反対の意を表明し、国の成り立ちを学び自国に誇りが持てる教科書の採択を求め要望書を提出致します。

1. 日本人を育てる視点から

教育基本法にある教育の目的は人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。とあります。ここでいう国民とは日本人のことはご承知のとおりでしょう。自分の国を貶める記述は特定の視点から歴史を評価するものです。子供たちに偏った歴史観を植え付ける恐れがあります。自分の国に誇りが持てなくて他国を大切に思えるでしょうか。中学校学習指導要領(社会編)に・「我が国の歴史に対する愛情，国民としての自覚，国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上 に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めと…」あります。また、自虐史観に基づく記述では・「主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと」とある究極の目標を達成できるとも思えません。
これらは教育基本法第５条の２国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことの目的にも沿うものではないと考えます。

2. バランスの取れた歴史教育の必要性

歴史教育においては、過去の過ちや教訓だけでなく、成功や貢献も含めてバランスよく教えることが必要です。平成26年の内閣府が行った調査(資料①)、日本の子供たちの自己肯定感(「人並みの能力がある」、「ダメな人間だと思うことがある」)は諸外国に比べ低い状況と結果が出ている。これら調査結果においても、一部で我が国における度々指摘のある自虐史観が影響している可能性も否めなくないと考えられます。一方的な自虐的な記述に偏らず、多面的な視点を提供することで、子供たちに幅広い歴史観を育んでもらいたいと考えます。

以上の理由から歴史・公民は以下の２社の教科書を採択を要望します。
〇自由社「新しい歴史教科書」「新しい公民教科書」
〇育鵬社「新しい日本史」「新しいみんなの公民教科書」

敬具

資料①内閣府調査より
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo14/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2017/07/11/1388011_11_1.pdf